

【団体競技】 手具は持たずに徒手体操(リズムカルな徒手や跳躍・バランス・柔軟・倒立などの静止技など)と転回系(タンブリングや組運動)で創作される。演技時間は2分45秒〜3分。

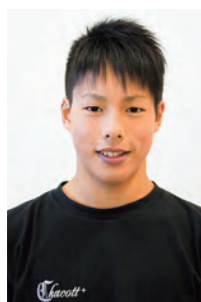


1~3\_身体の直線や曲線を際立たせた「美しい体操」で観客を魅了した選手たちに会場が沸いた 4\_個人競技・個人総合2位の賞状を受け取る佐藤綾人くん。綾人くんは種目別でもすべての種目で入賞し、5つのメダルを手にした 5\_団体競技5位入賞の賞状を受け取る遠藤くん



## The Artists 2013

全国大会出場を果たした6人を紹介 (①感想、②夢)



佐藤 嘉人くん  
Yoshito Sato

①個人はミスが多くやしい大会でしたが、ミスをして5位に入賞することができたのは自信につながった。団体は心をひとつにして精一杯演技できたので良かったと思う。3人で気軽に声を掛け合いながら互いにライバルとして、これからも新体操を続けていきたい ②高校に進んでインターハイ優勝を目指す



佐藤 颯人くん  
Hayato Sato

①個人は気負い過ぎて悔いが残る結果となったが、まだまだこれから、切り替えてがんばっていききたい。3人で新体操を続けていくことは大きな成長につながる。互いにライバルとして続けていきたい。団体はキューブラしい演技を見せることができた ②高校ではこれまで以上の練習に励み自分で満足できる演技をしたい



佐藤 綾人くん  
Ayato Sato

①個人は落ちて演技に望むことができ、個人総合で2位に入賞できてうれしかった。団体はミスはあったが今までで一番いい演技ができた。3人でこれからも互いにライバル意識を持って進んでいきたい ②高校に進んでインターハイや選抜での優勝を目指し、大学まで新体操を続けて全日本優勝を目指す



遠藤 那央斗くん  
Naoto Endo

写真提供：GymLove / photographer 清水 綾子さん ※個人種目スティック・リング、団体4ページの2・3  
[清水さんからのメッセージ] 5月に東京体育館で行われた全日本ユースチャンピオンシップという大会では出場選手の多くが高校生の中、3人そろって決勝に進出。団体も4位に食い込むなど目覚ましい活躍を見せてくれた。三つ子という話題性がとかく先行しがちと思われることも多いのではないかと思うが、着実に実績も重ねつつあって目の離せない選手、チームであることは間違いない。ユースから全日本ジュニアの数カ月でぐんと背も伸びたようだし、何より3人それぞれの個性が少しずつ顕著になってきたように思う。新体操は表現力も重要な競技なので、3人3様の個性あふれる演技を期待する。まだまだ伸びしろもいっぱいなのでこれからどのように成長するのかとても楽しみだ。



南部 武人くん  
Taketo Nanbu

①団体は練習の成果を出すことができた ②今、新体操とテニスの両方を続けていて、どちらに進むか迷っている。新体操を続けるのであれば、高校で選手になれるよう練習と勉強に励みたい



高橋 稜くん  
Ryo Takahashi

①中学1年生から新体操を始め、全国大会は初めて出場。メンバーの声掛けもあり緊張の中、自分の演技ができたと思う ②高校に進んでインターハイで優勝し、全日本出場を目指す

団体競技には、9つの地区予選を勝ち抜いた20チームが出場。佐藤3兄弟と、高橋稜くん、南部武人くん、遠藤那央斗くんの6人が、ヒップホップの動きに男子新体操の基礎である徒手体操を織り交ぜ、ダンスとの融合を図った流れる演技を披露し、なみいる全国の強豪に挑んだ。しかし、6人が片方のひざを曲げた状態で倒立し、バランスを保ったまま5カウントをキープする「鹿倒立」で、前に手をついたり、早めに倒れたりするミスがあったことなどが響き、結果は5位に終わり、昨年の4位を上回ることができなかった。

柴田監督と本多コーチに大会を振り返って、6人の演技について伺った。

動きの質や力強さに磨きをかけ、深みを増した演技を披露！

本年度の団体は、高橋稜、南部武人、遠藤那央斗の新メンバー3人が加わってのスタート。演技の振り付けは昨年度と同様のものだが、熟練度を上げて作品の魅力により伝えられるよう意識して挑んだ大会であった。

メンバー構成は、中学3年生が4人、中学1年生が1人、小学6年生1人の計6人で、年齢や体格もバラバラなチーム編成であったが、昨年度より質の高い仕上がりで本番を迎えることができた。

タンブリングの難度も昨年度のD難度2つから、4つに上げ、すべてのタンブリングを最高難度であるD難度で挑んだ。また、中学3年生を筆頭に、動きの質や力強さにも磨きをかけ、同じ振り付けでも深みと重みを増した演技を披露することができた。

団体のレベルは全体的に高く、5位入賞は健闘したと言える結果！

振り付けには、ほかのチームにはない、ダンス的な要素を各所に取り入れ、観客を魅了する独創性を際立たせた演技構成とした。倒立とタンブリング後の処理でミスが見られたが、それ以外は練習の結果がはつきりと表れた内容であった。

本年度の団体は、年齢層が離れていたために、学校の行事や時間帯の違いから、6人全員がそろって練習する機会があまり得られなかった。しかし、少ない練習時間を効率良く、計画的に行うことで、練習時間の少なさを補うよう努めた。

結果は構成点が9・250点、実施点が8・600点、計17・850点で、構成点は全体で2位の得点であった。順位は昨年度の4位から5位へと下がったが、点数では昨年度を上回ったこと、本年度の団体のレベルは全体的に高かったため、その中の5位は十分健闘したと言える結果である。